

# 『フィジカルアセスメント研修』

## 研修会実施報告

日時 : 令和4年6月22日(水) 8:30~16:00

対象者 : ラダーⅢを目指すもの

参加者数 : 対象者15名 一般参加者1名

目標 : あらゆる側面から情報収集し、状況に応じたアセスメントができ、教育的立場で指導ができる

### <講師の紹介>

山内豊明先生

1985年 新潟大学 医学部を卒業

神経内科医師として臨床経験後、カリフォルニア大学

1997年にアメリカでナース・プラクティショナー取得

帰国後99年に看護師・保健師の免許を取得

現在 名古屋大学大学院 名誉教授

放送大学 教養学部 生活と福祉コース教授を兼任



### <内容>



今回のフィジカルアセスメント研修では、まず緊急度・重症度を素早く判断するために、急変の瞬間に何を考えて行動すべきかを要点を押さえてわかりやすく教えて頂きました。どんなに素早く判断、行動してもその瞬間に出来る事は限られています。急変時に何を選択すれば良いのかをたくさん考えるのではなく、知識と根拠をもって少しでも無駄を省きながら情報収集ができるかが重要であると学びました。

バイタルサインの講義では、看護の基本である目で見て手で感じるなどの五感を使って全身状態をアセスメントし情報収集していく事の大切さを再認識できました。呼吸音は異常音を聴いたことがなければ判断することが出来ないため、知識として疾患から生じる異常呼吸音の種類を知っておき、その場で聞き分けられるようになることが研修後の課題となりました。看護記録については、自己判断や自己解釈を交えずに事実のみを記録に残し、共通の用語を使うことで、医師やコメディカルへ正確な情報を伝達できることを学びました。受講生のみなさんには今回の研修の学びから、指導的立場を意識した関わりを各部署で発揮して頂きたいと思います。